

幼い難民に未来を



発行：幼い難民を考える会 〒150 東京都渋谷区広尾4-3-1 TEL 03-499-1226 ●振替口座 東京1-36227



子どもは **今** を 生きている

戦乱や社会体制の変革のために自分の国を離れざるを得なかった人たちは「難民」と呼ばれています。日本には、インドシナ難民（ベトナム・カンボジア・ラオス人）だけで約5500人が定住しています。そのうち15歳以下の子どもは1165人。（1988年3月現在定住センター退所後出生者は含まず）

難民キャンプや日本で生まれた子どもたちは、祖国での生活を知らないまま大きくなっています。今回は、カオイダン難民キャンプと日本に住むインドシナの子どもたちがどんな生活を送っているかを、インタビューと、調査の結果からまとめてみました。

カオイダンキャンプの小学生へのインタビュー

★9歳の男の子

- どこで生まれたの？
- マイルートキャンプ。
- カンボジアのこと覚えている？
- いいえ、なにも。
- カオイダンに来たのはいつ？
- 1982年。
- カオイダンの生活でいつが楽しい？
- 朝！ 学校へ行くの。学校で、片

- 足とびとか、かけっこかするの。
- 希望の家（CYRの保育センター）にいたとき、どんな遊びが好きだった？
- サッカー。
- キャンプの中で何をするのが好き？
- ご飯を炊くの。
- おかずは？
- つくれない。お母ちゃんがつくっ



- してくれる。
- キャンプの外に出てみたい？
- いいえ。
- どうして？
- 兵隊……（小さな声で）
- 第三国へは行きたい？
- 行きたい。
- 大きくなったら何になりたい？
- お医者さん。

★12歳の男子

—どこで生まれたの？

バクタンバン。

—カンボジアのこと何か覚えている？

トンレサップ湖しか知らない。

—行ったことがあるの？

はい、お父ちゃんと魚とりに行った。漁師だったから。

—いつからキャンプにいるの？

1979年4月……17日。(カオイダンキャンプができたのは、1979年11月。カンボジアから逃れた日のことと思われる)

—キャンプの外に出てみたい？

いいえ、兵隊に撃たれるのがこわい。

—今いちばん楽しいことは？

朝、勉強するとき。

—何の？

遊び。葉っぱとりとか、サッカーとか。

2

—じゃあ心配なことは？

どろぼうに入られるとこわいな。

—今ほしいものはある？

ほしくない。第三国に行ったらほしいけど……。

—何かほしいの？

車。

—大きくなったら何になりたい？

病院で働きたい。

★7歳の女の子

—どこで生まれたの？

カンボジア。

—今いちばん楽しいことは何？

朝よ！

—えっ、朝!? 何で朝が楽しいの？

お勉強よ！ 文字を書くお勉強と、計算。

—希望の家にいたとき、何をやっているのが楽しかった？

糸巻になわを通すの。

—いちばん好きな人はだれ？

妹と……エート、お父ちゃん。

—お母さんは？

……(無言)

—キャンプの外に出てみたい？

いいえ。

—大きくなったら何をしたい？

CARE*のお仕事。

★14歳の男子

—いつからキャンプにいるの？

1980年。

—今いちばん楽しいことは何？

親、兄弟に会えれば楽しいけど。

—今だれと一緒にいるの？

おばあちゃん2人と弟1人。

—両親は？

お父さんは、フランスにいます。

—お母さんは(国境の)サイト2に



ます。

—フランスにいるお父さんから手紙は来る？

時々くる。

—フランスへ連れて行ってくれるというてなかった？

わかりません。お父さんがどう考えているのか。

—カンボジアに親戚はいる？

おじいちゃん。

—どうして一緒に来なかったの？

ベトナム軍が入ってきたときに別れたんだ。

—キャンプの外に出てみたい？

行きたいけど、勉強の時間じゃなかったら……。

—どんな所へ行ってみたい？

アランヤプラテート*へ。

—家で何をしてるの？

勉強してるの。

—大きくなったら何になりたい？

お医者さんになりたい。いろんな

困っている人を助けたいから。

—何か一つだけ願いかかなくなるとしたら、何を願う？

何もいらない。お父さん、お母さんに会いたい。今のぼくは、親もいなく、森の中に迷っている小鳥のようです。

—第三国に行きたい？

行きたいのは当たり前です。とくにお父さんに会いたい。

(編集部注：この子のお父さんは1976年にフランスにわたり、新しい奥さんと暮らしています。)



*CARE=アメリカの民間団体で、食糧配給、補助給食、技術訓練、栄養教育等を行っている。

★9歳の男子

- どこで生まれたの？
サケオキャンプ。
—希望の家にいたとき、何を
しているときが楽しかった？
サッカー。
—そのときの先生のこと好き？
うん。
—どうして？先生が何かした？
ぶったの。
—家族は何人？
7人。
—お父さんは何しているの？
物を売っているの。
—お母さんは？
家にいる。
—きみは何をしているの？
弟の世話。
—いちばん好きな人はだれ？
いない。



- ご飯は1日何回食べる？
2回。
—いつ？
夕方と、エートお昼。
—朝は？
食べるよ。お母ちゃんがコインを
くれるから、おそばを買って食べる。
—自分の身長と体重知ってる？
110センチ、21キロ。
(日本の9歳男子の平均は、132.9
センチ、29.7キロ)
—今何かほしいものある？
ボール。
—もらったならどうするの？
蹴るの。
—大きくなったら何になる？
タイのお医者さん。



★6歳の女の子

- どこで生まれたの？
カオイダン。
—今楽しい？
はい。
—学校へ行って？
行ってる。
—希望の家と学校と、どちらか楽
しい？
学校。
—どうして？
遊べるから。
—どんな？
ウーンと、輪投げとか、サッカー
とか、なわとびとか。
—お父さんは仕事してる？
畑。
—大きくなったら何になりたい？
お嫁さん。

★12歳の男子

- 希望の家と学校と、どちらか楽
しい？
学校。
—どうして？
勉強するから。
—休み時間は何して遊んで？
片足とび。
—希望の家にいたときは、何をし
ているときが楽しかった？
押し車で遊ぶの。
—今はどんなときが幸せ？
明日。
—どうして？
月曜日で、ボールができるから。
(ボーリングに似たスポーツ)
—好きな食べ物は？
ご飯とみかん。
—ご飯は1日何回？

朝と夕方の2回。

- 昼は？
昼もいっぱい食べる。
—体重はどれくらい？
22キロ。
(日本の12歳男子の平均は42.2キロ)
—キャンプの外に出てみたい？
いいえ。
—誰かが連れて行って欲しかったら？
行きたい。アランヤプラテートへ
行きたい。
—そこで何をしたい？
面接を受けたい。
—大きくなったら何になりたい？
CYRの先生！

★11歳の男子

- どこで生まれたの？
カンボジア。
—カンボジアのことを何か知って
る？
知らない。
—家族は何人？
14人。
—お父さんは何してるの？
畑。
—お母さんは？
商売。
—いつかいちばん楽しい？
日曜日。劇を見に行けるから。
—キャンプの外に行きたい？
行きたい。アランヤプラテートへ、
散歩に。
—大きくなったら何になりたい？
字を教える先生。
(このインタビューは、今年の3月
に保父のチャンポイが行ったもの
です。日本語訳/チューダラレ)

2 日本に住むインドシナの子どもたちの生活は?

インドシナの子どもたちが日本でどんな生活を送っているのかを知るために、CYRでは、親に質問をする形で調査を行いました。

対象は、カンボジア人10世帯、ベトナム人7世帯の計17世帯の42人の子どもたち。子どもの年齢は、右のグラフの通りです。

この調査は、昨年9月から10月にかけて行ったもので、以下にその結果をご報告します。

1) ことばについて

- ・日本語は、保育園や学校の友だちから覚えた。 88%



- ・母国のことばを話せる。(少し話せるも含む) 53%

☆これはベトナム人家庭のすべて(7世帯)とカンボジア人家庭2世帯。

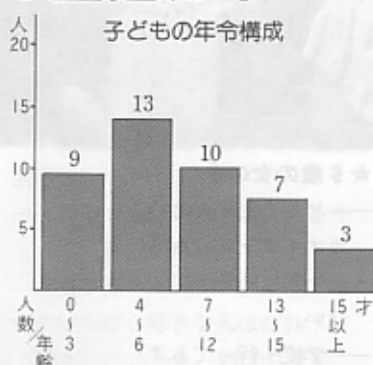
- ・話せないか聞くのはわかる。(簡単なことばのみ) 35.3%

☆ベトナム人家庭では、うちの中ではベトナム語、日本人とは日本語とはつきり使い分けをしているようです。

2) 親子の関係について

- ・日本に来てから親子の関係が変わった 41.2%

☆その内容は、「親子でよく話すようになった」というベトナム人家庭4世帯がもっとも多く、そのほか、「子どもが言うことをきかなくなった」「親が仕事で忙しいので子どもと触れ合う機会が減った」などが、カンボジア人家庭からあげられました。



- ・家の手伝いをする 70.6%
- ☆その内容は、そうじ、買い物、料理、洗濯、アイロンかけなど。

- ◎子どもを叱る時、時々たたく 47.1%
- 話してきかせる 47.1%

☆叱る方法は、「小枝で足・おしり・背中をたたく」「壁に向かって座らせ反省させる」などがあげられました。

3) 環境と子ども

- ・幼時期を過ごした場所によって、兄弟や、子ども自身に違いがみられる 23.5%

☆日本で生まれた子どもは、母国や難民キャンプで生まれた子どもに比べ「知識の吸収が早い」「人みしりせず、良く笑い話す」などの違いがあげられました。また、「難民キャンプにいた頃は引っ込み思案だったが、日本に来てからよく話すようになった」という家庭もありました。

4) 子どもについて心配なこと

- ・子どもの学校のこと、勉強が心配 47.1%
- ・子どもが外国人だということで、いじめられたり、けんかをするのではないかと心配 23.5%

5) 保育園・学校と親との関わり

- ◎保育園・学校での親の集まりに参加する 52.9%
- 参加しない 35.3%
- ☆参加する家庭でも、うち2世帯は「日本語を必要とする集まりには参加しない」と答えています。ことばの不自由さから、限られた範囲の集まりにしが、関わっていなかったり、まったく関わらずにいることが伺えます。

- ◎保育園・学校からの書類はわからない 70.6%
- 少しわかる 17.6%
- わかる 0.6%

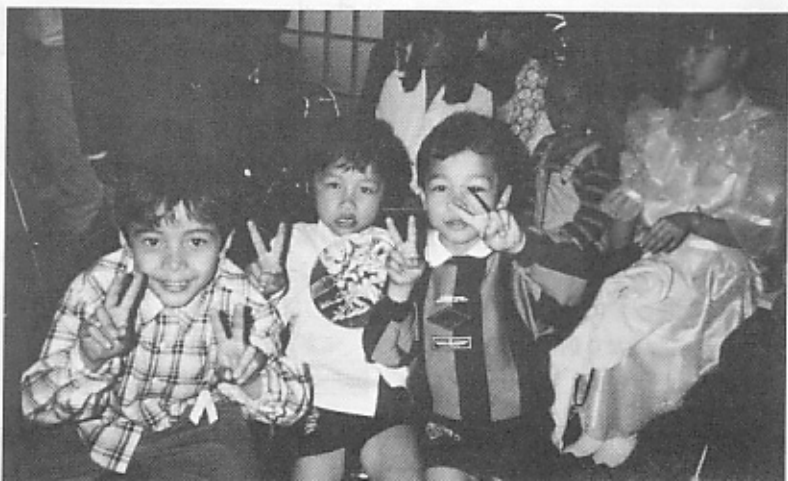
- ◎書類がわからない時、だれに相談するか? 世話をしてきている日本人 41.2%

☆その他、職場の人、近所の人、保育園・学校の先生に直接聞く、年長の子どもに聞く等があげられました。しかし、1世帯は「相談できる人がいない」と答えています。

6) 子どもの食生活

- ◎母国の料理が好き 58.8%
- あまり好きではない 29.4%
- きらい 11.8%

☆「好き」と答えたのはベトナム人





家庭に多く、「きれい」と答えたのはカンボジア人家庭。においの強いもの、辛いものは食べないようです。「日本に来た当初は、田舎の料理をよく食べたが、今はあまり食べない」と、在日年数が長くなるにつれ、子どもの食生活が変化すると3家庭が認めています。

◎日本の料理を

- つくれる 64.7%
- つくれない 35.3%

☆日本の料理をつくれるのはカンボジアの家庭が多く、なかには「どうしてもカンボジア風になる」と答えた人もいます。つくれない家庭でも3分の1は、子どもがつくっています。つくれる料理のトップはカレー。

◎子どもは偏食を

- する 81.3%
- しない 18.2%

☆子どもがきれいな食べ物は野菜、魚が多いようです。

◎インスタント食品を

- よく食べる 47.1%
- 時々食べる 41.2%

☆よく食べるインスタント食品は、ラーメンが最も多く、「田舎」「1日3食食べる日もある」「休みの日には必ず食べる」と答えた家庭があり、手軽さがうけているようですが、栄養のバランスが気になるようです。

7) 子どもと母国

◎子どもに伝えたい母国のことは？

- ことば 47.1%
- 文化、習慣、歴史、地理 41.2%

☆具体的には、あいさつ、宗教、祭り、踊り、民族衣装、料理に使う野菜などがあげられました。「ポルポト時代の苦しい体験を伝えたい」と答えたカンボジア人家庭もありました。

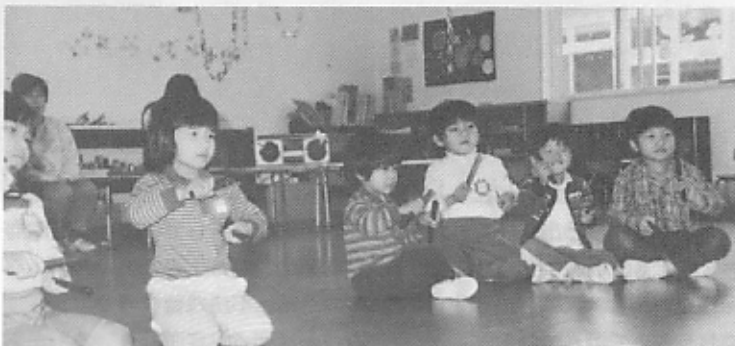
◎子どもは母国をどうとらえていると思うか？

- わからない 29.4%
- 好きだと思っている 11.8%
- 漠然としたイメージを持っている 11.8%

母国を知らない 5.9%

今回調査をしたのは、17世帯と少ないので、この結果で全体を類推することはできません。

しかし、日本にいても自分の国の文化を守っているベトナム人家庭と、ことばや文化を伝えたいと思っているのに伝えられないカンボジア人家庭が浮きぼりにされたように思われます。



国際救援センターのベトナムの子どもたち。彼らはどこに定住するだろう。

3 日本に住むことを許されない子どもたち

一方、日本に住んでいても、法的にまったく認められていないインドシナの子どもたちもいます。

インドシナの戦乱によって祖国を逃れ、タイ、台湾、香港などにいったん渡って、パスポートを持って、日本に来た人たち——「流民」と呼ばれている人たち——の子どもたちです。

1981年に、流民にも「人道上の配慮」により「事情を考慮して」特別在留許可を与えると、法務大臣が国会で言明し、今までに約130人が合法的に日本にいられるようになりました。これで流民問題は解決したかに思われましたが、この数年、再び、横浜入国者収容所への移送、強制送還が増えてきています。現在収容されているのは3人。うち2人は、すでに1年以上も収容されています。昨年12月に1人、今年の2月には1

家族がパスポートを発行した国へ強制送還されてもいるのです。

この日本の現実の中で、入国管理局に出頭しないまま、または観光など短期滞在の資格で外国人登録だけをして生活している人々も、かなりの数にのぼります。長い潜行生活の中で子どもが生まれた人、妻や子どもを日本に呼んだ人もいます。

そんな家族の一つを訪ねてみました。

ご主人は、旧南ベトナムのサイゴン生まれ。奥さんは北京生まれの中国人。子どもは、12歳と3歳の男の子。ベトナム戦争が激化したため祖国を離れたご主人は、香港と台湾を行き来する生活を送り、'86年に香港のパスポートで来日。'87年に家族も、同じく香港のパスポートで来日しています。

現在、中華学校6年生の長男Y君

が、日本での生活を語ってくれました。

「朝起きるのは6時。6時半には家を出る。学校は、電車で40分くらい。遊びたいから学校へ早く行くの。授業が始まるまで、バスケットボールや、野球をやるの。朝ご飯は食べない。食べるより遊ぶほうがおもしろいもん。勉強の中では、算数が好き。卒業したら、できれば近くの日本の中学校に行きたい。でも、行けるかどうかわからない。日本語は、知ってる人の友だちの日本人に教えてもらった。学校にも日本人がいるし。その子とは、日本語で話す。むずかしいことばは、まだわからない。

1月から、お母さんは、夕方から夜まで働いている。だから、はくが学校から帰ってくると出かけてしまう。お父さんも、9時半ごろじゃないと帰れないから、夜は、弟と2人だけ。おもちゃで遊んでいるけど、時々こわくなったり、さみしくなったりすることがある。そういう時は、テレビを見るの。野球が好きだから。

弟は病気（川崎病）で、病院にずいぶん何回も行った。このごろは、少しよくなってきたけど。

「大きくなったら？ ウーン、まだわからない。」

日本人の子どもより子どもらしさがある、なかなかしっかりした男の子という印象でした。

お母さんは、「あまり日本語は話せませんが、漢字がわかるので募集の



安藤勇神父



はり紙で今の仕事をさがしました。できれば昼間の仕事に代わって、下の子を保育園にあずけたいと思っています。夜、子どもが2人だけでは、心配です。でも、身分証明がないとだめだと言われました。」と、不安定な生活の一端を語ってくれました。

外国人登録をしても、短期滞在期間は3か月まで。すでにオーバーステイ、不法残留なのです。もしみつければ「収容所行き」の不安をいつも抱えての生活。保障が一切ない生活で、子どもが病院にかかるたび、5000円、6000円…と払わなければなりません。

この流民問題に10年以上も前からずっと関わっている人がいます。イエズス会社会司牧センターの安藤勇神父です。関係各方面に緊急レポートを送ったり、国会議員に働きかけて、国会の法務委員会で、流民問題をとりあげてもらったり……と精力的に動いていますが、マスコミの反応は必ずしもよくないようです。「日本で、インドシナ難民への関心がうすれてしまっているんです。最近になって流民問題がまた増えているのは、アジアからの労働者が増えて、唯一の窓口である入国管理局としては、一人一人の事情まで細かく聞いていられないということなのかもしれません。でも、だからといって、このままでいいわけはありません。まだ流民問題は終わっていないということを言い続けていかないと、無関心が、もっと多くの強制収容、

強制送還を生んでいくと思います。一人でも多くの人に、関心をもってほしいのです。」

勉強をしたくても受け入れてくれる学校がない子どもたちもいると聞きました。日本の中学校に進学を希望しているY君も、望みがかたう可能性はきわめて少ないと思われます。「お父さんの国、ベトナムに行ってみたい？」

「今ベトナムはないよ。」

Y君は答えました。

※流民問題について詳しいことをお知りになりたい方は、下記の安藤神父までご連絡ください。

東京都新宿区河田町7-14 TEL03-359-7655 イエズス会社会司牧センター

カオイダンや日本に住んでいるインドシナの子もたちが、もう少し大きくなった時、「祖国は人の生きかたにとってどんな意味があるのか」と、自らに問いかけるかもしれません。もし、親や、まわりのおとなたちが、自分たちの文化に誇りを持って生活していれば、たとえ住んだことがなくても「祖国」は、子どもの心の中に根づくはずで。

子どもは今を生きています。だからこそおとなたちは、祖国のことを語り、伝えていかななくてはいけないのです。明日ではなく今。

CYRは、そのためのお手伝いをしたいと思っています。

カンボジアのお正月を 平塚の大島団地で祝う



読経のあと、お坊さんが水をかけ、祝福をする。

4月13～15日は、カンボジアのお正月。この日に先立ち、4月10日の日曜日に、神奈川県平塚市にある大島団地で、お正月のお祝いをしました。

大島団地には、カンボジア人9家族、近くの下島第2団地には3家族が住んでいます。昨年の秋ごろから、CYRの会員、関係者5人がこの2つの団地を訪ね、日本語の勉強と、子どもたちの勉強のお手伝いをしています。

今回は、同じ団地に住んでいる日本人の文化に、カンボジアの文化に触れ、カンボジアの人たちと親しくなるきっかけにしていきたいと企画したものです。

私たちの申し出に、「カンボジアのお正月ですから、自分たちで責任をもってやります」と言ってくれたカンボジアのお父さんたち。「あの人たちが、やりやすいようにやるのがいちばん。自治会は、その手伝いをするから」と自治会長の菅野栄さんも快く賛同してくださいました。

1か月以上も前から準備を重ね、そして、当日。それまでの不順な天候を忘れさせてくれるような天気でした。料理の支度、祭壇の飾りつけ

等で、ほとんど寝る時間もなかったカンボジアの人たちでしたが、200人近いお客さんたちを迎え、司会に、接待こと心を砕いている様子は、感動的でした。

「主催／カンボジアの人たち 後援／大島団地自治会とCYR」のお正月は、10時からの読経に始まり、砂の山の儀式、会食をはさみカンボジアの音楽と舞踊、ゲームと続けました。久しぶりの再会を喜ぶカンボジアの人たち。儀式や踊りを見に来たり、カンボジア料理を味わってくれた日本人たち。祭壇の飾りつけや、カンボジアの文字の美しさに感心したり、カンボジアの踊りは盆踊りに似ていると発見したり、と日本人たちにとって、新鮮な出会いもあったようです。

とくに日本のお年寄りを感動させたのが、「お年玉」。主催したカン

ボジアのお父さんたちは、お客さんたちからのご祝儀をすべてお年玉として、カンボジアと、日本のお年寄りにプレゼントしたのです。カンボジアが、お年寄りを大切にする国だと実感してくれたことでしょう。

今回のお正月には、たくさんの方たちのご協力をいただきました。オクン チェラウン（カンボジア語で、ありがとうございます）

CYRでは、これからも地域の方たちの理解と協力を得るための活動を続けていきたいと思っています。



※カンボジアのお正月がビデオに！

大島団地でのお正月を準備段階から、当日の様子まで記録したビデオを、大島団地自治会から寄贈されました。ご覧になりたい方は、事務局までご連絡ください。



希望の家レポート



西灘小学校の子どもたちが描いた絵を見せながら日本の話をする保育者。

カオイダンと神戸をつなぐ絵

昨年、神戸市立西灘小学校の園工担当の新島彬先生が、東京広尾のCYR事務所に、子どもたちの絵を届けてくださいました。その日本の子どもたちの絵には、手紙、運動会の写真、傷テープまで添えられていま

などなど。それぞれの絵は、ボール紙で裏打ちされ、保育センターで働く大工さんたちが、竹で額縁をつくってくれました。保育室と図書室に飾る予定です。保育センターの子どもたちや、ここで働くおとなの目を楽しませてくれることでしょう。

キャンプの保育園で働いている保育者は、20代前半の人たちが多く、西灘小学校のみなさんの年ごろくらいから戦争に巻きこまれて、家族と離ればなれになっていた人たちがほ

♥カオイダン発♥

先日、日本に一時帰国しました折、西灘小学校のみなさんの絵を見せていただきました。のびのびした線や、色づかい、ひとつひとつの絵がとても素晴らしいと思いました。

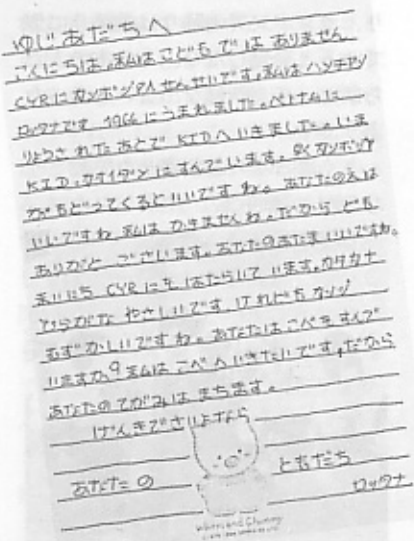
カオイダンキャンプに帰り、みなさんの感想や、手紙もカンボジア語に訳して、保育園の先生たちと一緒に見る機会をもちました。そこで興味深く絵をみながら、いろいろ話がなされました。

「神戸というのは、東京の近くか。海と夕陽の色がきれいだった。」

「神戸港は、カンボジアのコンボンチャムにある港のようだ。でも、もっと大きい船や、タワーもある。」

「日本の家は木でできているのか。家の上を電車が通っている。車輛がたくさんつながっている。」

「ほんとうに小学生が描いたのか。」



とんどです。キャンプで、親や兄弟と何年かぶりで再会した人もいますし、今も、親や兄弟と離れていたり、消息がわからずにいる人もいます。

生徒のみなさんの描いた絵を見ることによって、日本のこと、そこに住む人の暮らしぶり、また日本の子どもたちのことを具体的に知るとてもよい機会になることと思います。また、私たちにとりましても、キャンプの人たちのことをお伝えする機会を設けていただきました。ありがとうございました。

追伸 同封の手紙は、保育者の一人、ロックナさんが、足立雄治さんへあてたものです。ロックナさんは、保育園で2年働いています。日本語は、ほとんど独学で覚えたものです。

タイ 関口晴美



♥神戸発♥

ロックナさんへ

まさか返事がくるなんて思いませんでした。びっくりしました。

せんそうは、いやですね。ほくも、おばあちゃんから、せんそうの話を聞いただけでもこわかったです。なぜ、せんそうなんてするのでしょうか。ロックナさんは、将来どんなゆめをもっていますか。アメリカや、神戸へ来るんですか。日本に来られたら会いたいですね。また、そちらの子どもたちの様子を教えてください。お元気で、さようなら。 足立雄治

カンボジアのみなさんこんにちは。

絵を額縁に入れてみんなで見てくれていると聞いた時、とてもうれしかったです。

カンボジアが平和になることを、まだあきらめないでください。私はずっとこのままです。カンボジアのみなさんが平和になることを、ずっと、ずっと。
李 絵里

はじめまして。キャンプ生活なんて、すごく大変でしょうね。子どもが学校に行くとき、小さい子どもをつれていくんだそうですね。なんだか、私たちより、そちらの人のほうがえらいような気がします。そちらの人は日本に来たいと思いますか？ 私なら大かかげいすと思います。私は、今そちらにいて、みなさんと遊んでみたいなあと思います。

みなさん病気にかからないように気をつけてくださいね！

河壽華代

私の娘は、タイのタブラヤにある幼稚園に通っています。

幼稚園での生活は、9時からのタイ語の読み書きの勉強で始まります。この日課は、読み書きを身につけるためというよりは、読み書きに慣れるためのものです。これはせいせい1時間程度で、子どもたちが飽きてきたら、おもちゃや運動場で遊ばせます。

11時になると、父兄が昼食を持って来て、食事になります。

午後の1時からまた授業が始まるので、まず子どもたちは、歯をみがき、顔を洗い、身だしなみを整えます。一人できない子どもは、先生が手伝うようにします。それから3時まで、みんなで手遊びや、踊りを加えながら歌をうたって過ごします。

先生たちは、すべての子どもの世話をしますが、とくに新しく入った子どもには細かく気を配っているようです。初めのうちは手を貸して、



新島先生（左から三人目）と西遊小学校の四年生たち。

♥カオイダン発♥

ぼくは、日本のみなさんが大好きです。

お元気ですか？

ぼくは、ボール遊びと本を読むのが好きです。 マオ（12歳）

日本の友だちへ、友情をこめてあいきつを送ります。

ぼくはキャンプで、毎日サッカーやピンポンをして遊んでいます。ぼくの家族は、8人です。ぼくと弟や妹たちは、一生懸命勉強しています。

だんだん一人でやらせるようにしています。先生は、保育の専門の勉強をした、資格のある人ばかりです。父兄には、幼稚園ではどんなことを学んでいるか、子どもはどんな様子かを伝え、父兄のほうも聞きたいことは何でも聞けます。ですから、先生と父兄の間は、うまくいっています。家庭でも、しつけや教育をしています。

CYRの幼稚園と保育園



タイ人の目

カンボジアの戦争は、まだ終わっていません。この戦争で、たくさんのカンボジア人が死にました。ぼくたちは、国を捨てて逃げてきましたが、国がなつかしいです。戦争が終わってほしいけれど、終わりません。どう猛な動物が咬み合うように、戦っています。

ぼくは日本に行きたいです。助けてください。日本の様子を知りたいと思います。どうか教えてください。さようなら。

ウーブンルン（13歳）

このタブラヤの幼稚園に比べ、CYRの保育園は、難民キャンプという特殊な状況で運営しています。この状況の違いが、先生の質の差となっているように、私には思えます。保育者養成講座は、7週間と短かすぎますし、限界があります。何か問題が起きた時、適切な処理をしたり、責任をとる人がいないのも、このへんに原因がありそうです。

子どもを保育園に通わせている親にしても、子どもに何の関心も払わない人もいます。先生が十分に世話をしてくれないと非難する人もいます。

キャンプで、未来の希望を持ってないまま何年間も過ごしている難民にとって、意欲を持ち続けるのはむずかしいことです。希望がなければ仕事をやる気もなかなか起きないでしょう。こういう状況での保育や、保育者を養成するのは、たやすいことではないと痛感しています。

ジャルニー・ソンバット(洋裁担当)

ソピアップと

かみなりちゃん

CYRでは、1980年からUNHCR、ユネスコなどの補助金を受け、カンボジア語の絵本などを複製しています。この「ソピアップとかみなりちゃん」も、その1冊です。



文/イータウジェ 絵/ロスカン、チュワンサンバット

町から遠く離れたある村に、2人の女の子がいました。1人はソピアップ、もう1人はバーニーといいました。

ソピアップは、やさしい女の子で、とても働きものでした。毎日、朝早くから起きて働くので、お母さんが起きる必要はありませんでした。

バーニーはなまけ者でした。太陽が昇っても、いつまでも寝ています。その上とても乱暴で、子どもたちとけんかばかりしていました。ですから「かみなりちゃん」と呼ばれるようになりました。

ある日、ソピアップとかみなりちゃんが、森へ一緒にくだものをとりに行きました。途中2人は、歩きにくそうにしている、足の悪いおばあさんに会いました。

「あら、このおばあちゃん、こんなにゆっくり歩いたらぶつかってしまうじゃない。」

かみなりちゃんはそう言って、おばあさんに追いついて、ぶつかったまま行ってしまいました。

ソピアップは急いでおばあさんを起こして、眼についている土を払ってあげました。それから、木の枝を折って杖にして、おばあさんにあげました。

「おまえは、やさしい子だね。この子がいつも幸せでありますよう

に。」

おばあさんは、ソピアップのほうを向いて祝福して言いました。

もっと先に行くと、ソピアップとかみなりちゃんは、すずめの果が地面に落ちているのをみつけました。果の中には、卵からかえったばかりのすずめの子が2羽いて、ピイピイ鳴いていました。

「まあ、このすずめの果はとってもいいわねえ。あたし、これをかごにするわ。」 かみなりちゃんは、喜んで言いました。

木の枝の上では、すずめのお母さんが行ったり来たりしながら鳴いて、子どものことをとても心配していました。

ソピアップは、すずめがかわいそうなので、かみなりちゃんに言いました。

「バーニー、この巣をすずめのお母さんに返してあげてよ。すずめのお母さんがあんなに鳴いているのがわからないの。」

「関係ないわよ。あたしが見つけたものは好きなようにしていいでしょう。」

「バーニー！ ねえ、そのすずめの巣を私にちょうだい。わたしのご飯を半分あげるから。」

かみなりちゃんは少し考えてから、そうすることにしました。ソピアップは喜んで、すぐに木に登って、すずめの巣をお母さんに返してあげました。

2人の女の子がまた歩いていくと、子ザルがわなにかかっているのを見つけました。かみなりちゃんは言いました。

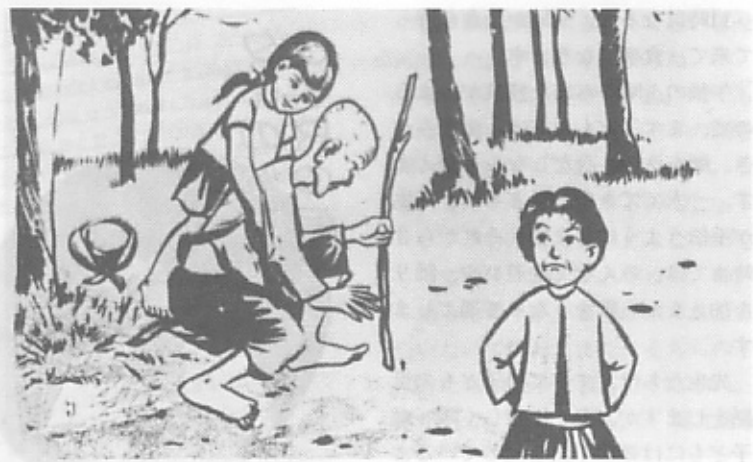
「あら、このサルはわなにかかったのね。あたしがわなからはずして売ってしまおう。」

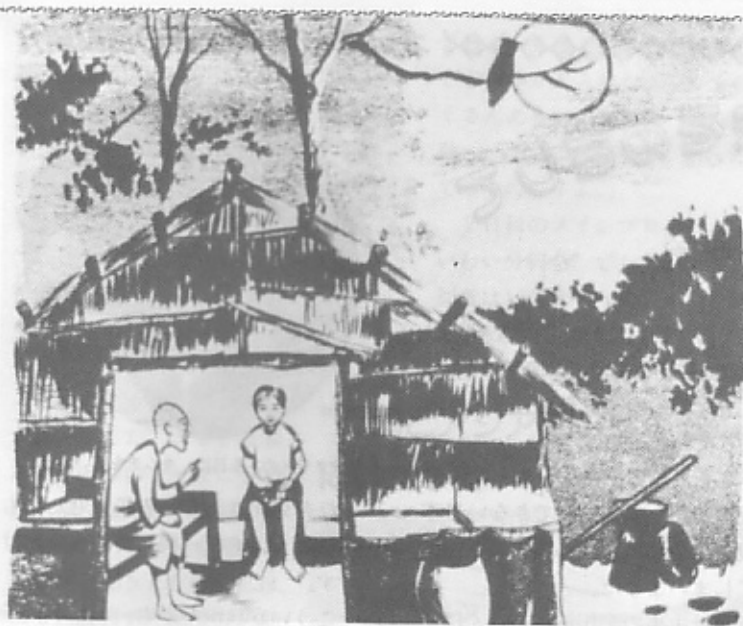
ソピアップは、子ザルをととてもかわいそうに思いました。

「バーニー、子ザルを放してあげて。とったくだものを半分わけてあげるから。」

かみなりちゃんは、にやっと笑って、放してやりました。

ソピアップは、よく熟れたくだものをたくさんとることができました。かみなりちゃんのほうは、





悪だくみをして、ソピアップのくだものを全部とってしまいました。ソピアップが泣きながら歩いていくと、前に助けた子ザルに出会いました。子ザルは、サル一族を連れてきて、たくさんのだものをとってくれました。そして、すずめは、果を2つ持ってきてくれたので、ソピアップはそれにくだものを入れました。

暗くなって、ソピアップは道に迷ってしまいました。すると向こうに光が見えたので、急いでその小屋に向かいました。ソピアップは、ドンドンと戸をたたきました。戸が開くと、足の悪いおばあさんがいました。

「こんばんは。」

「あら、おまえさんかい。こんなに夜遅くどこへ行くんだね。」

おばあさんは、ほほえんで言いました。ソピアップは、今までのことをおばあさんに話しました。「今夜はここに泊まっていきなさい。明日の朝、家に帰る道を教えてあげよう。」

おばあさんは、実は森の女神でした。ソピアップが、苦しんでいる人を助けるやさしい子どもだと

わかったので、その夜、ソピアップのくだものをみんな金に変えてやりました。

ソピアップは、次の朝起きてとても喜び、おばあさんと別れて家に帰りました。

かみなりちゃんは、ソピアップのことを知ると、自分も金がほしくてたまらなくなりました。かみなりちゃんは、森に入って行って、くだものをとり、女神の住んでいる所を探して歩きました。

ようやくおばあさんの家を見つけ、ドンドンと戸をたたきました。戸が開くと、そこにいるのは自分

が転ばせたおばあさんだということが、かみなりちゃんにはわかりました。

「ねえ、おばあちゃんはくだものを金に変えることができるんでしょう。このくだものを全部、ソピアップみたいに金に変えてほしいの。」

おばあさんは、ほほえんで、手をあげてかみなりちゃんのくだものを指さしました。パッとくだものは全部へびに変わりました。かみなりちゃんは、こわくて思わず叫び、気を失ってしまいました。

かみなりちゃんは、あまりこわい思いをしたので、重い病気になりました。ある晩、女神がかみなりちゃんの夢に現れました。

「もしおまえが、よい心をもち、お父さん、お母さんや年寄りを敬い、なまけず、やさしくなるなら病気を治してあげましょう。」

かみなりちゃんは目が覚めると、ソピアップと同じようによい子になろうと決心しました。しばらくすると病気は治っていました。かみなりちゃんはよい子になり、年上の人や友だちに好かれるようになりました。そして、人々は、もう「かみなりちゃん」と呼ぶのをやめました。(日本語訳/岡田知子)



「共に生きる」社会をめざして

——青丘社(せいきゅうしゃ)

「アンニョン」「アンニョン」

かわいい声で、私たち編集部を迎えてくれたのは、神奈川県川崎市にある桜本保育園の子どもたちです。この保育園では、朝鮮のことばでありさつをします。園児数70人。日本人と韓国・朝鮮人(以下総称して朝鮮人と略)の割合は、3対1。フィリピン人が1人、障害をもつ子どもも何人かいます。

この保育園を運営しているのが社会福祉法人「青丘社」。朝鮮半島の別名「青丘」(チョング)からつけられた名前だそうです。青丘社がめざしているものの1つが、「日本人と朝鮮人の子ども同士が、朝鮮の文化に触れることにより、お互いを認めあえる関係になること」。

韓国語のあいさつ・歌は全員で、民族クラスは、朝鮮の子どもを集めて開き、「朝鮮の文化に触れる」機会をつくっています。民族クラスは週1回。日本人と別のクラスにしているのは、仲間意識を強めるためだそうです。運動会やクリスマスなどの行事にも、民族舞踊、民族音楽をとり入れ、日本人の父兄もチマチョゴリ(朝鮮の民族衣装)を着るのを楽しみにしていると聞きました。

伝統的な朝鮮のお面づくりをする子どもたち。



私たちが訪ねた日、年長児のクラスでは、「本名を名のることの大切さ」を保父の南宮(なむぐん)さんが話していました。

本名を名のる——このまったく当たり前のことすらまだできない日本の現実を知って、居心地の悪さを感じてしまいました。

青丘社主事の李相鎬(いさんほ)さんは言います。

「まわりがみんな日本人だから、日本の文化の中でどんどん日本人化してしまうんです。同化か排除かという日本社会で、本名を名のることはかなりの勇気があります。保育園で本名を名のっている、小学校に入るときに半数以上は日本人名になってしまうのが実情です。お互いに支え合う仲間がいないと、同化の波にのめりこんでしまうんです。学校や教育委員会で、「同じようにしています。差別はしていません。」という説明をよく聞くんですが、「同じように」というのかいしばん問題なんですよね。日本人として生きればよい、ということなのでしょう。

ほとんどの日本人が、「私は差別していない」という意識をもっていると思うんです。確かに、はくが子どもの頃に比べれば露骨な差別は少なくなりました。でも朝鮮人として生きるのに生きにくい社会だということの本質的な部分は変わっていません。

日本名で生活していた人が何かのことで朝鮮人であることがわかると、「ねえ、ねえあの人朝鮮人なんだって」とヒソヒソ声で言う。朝鮮とか朝鮮人をタブー視している。親がそういう態度や意識をもっていれば、



民族クラスのある日は、キムチを買いに出る。

それを見聞かしている子どもたちも、同じようにタブー視してしまうわけです。

こういう状況だから、朝鮮人同士がどんな思いをしているか、つなぎとめあう場が必要になってくるんです。そういう場が保障されて初めて、日本人と共に生きることができると思うんです。その場を青丘社だけでなく、地域にまで広げていくことができたならと願っています。」

1974年に桜本保育園の運営から出発した青丘社は、子どもたちの成長と親たちの要望にあわせて、学童保育ロボの会、桜本学園(小学校高学年、中学生、高校生を対象にした民族教育・学習会)の運営と、その活動をひろげています。今年の9月には、地域の日本人、朝鮮人、障害児・者等、すべての人が利用できる「ふれあい館」も完成の予定です。

読んでみませんか?

『アボジ・オモニたちの裁判』

指紋押捺を拒否した、在日韓国・朝鮮人2世たちの、裁判での意見陳述をまとめた本です。子どもたちには同じいやな思いをさせたくないという親の心情に溢れています。

ご希望の方は、〒210 川崎市川崎区桜本1-8-22 川崎の指紋押捺拒否者を支える会 TEL 044-288-2997にご連絡ください。定価500円。

さる3月19日から21日の3日間、神奈川県の小田原市で、“草の根の海外協力をすすめる市民”の集まり“市民とアジアをむすぶ国際フォーラム”が同フォーラム実行委員会の主催により開かれました。

このフォーラムに参加した会員の後藤さんに報告してもらいます。

第1日目は、開会式のあとさっそく“はじまりフォーラム”

がありました。ここでは参加者は5つのテーマに分かれ、様々な分野で活動している海外ゲストから現場の生の声を聞きました。私は、タイの農村で保健医療活動をしているサムルン・ヤングラトク先生の部屋に入りました。話の大部分はかなり専門的なものでしたが、参加者はみな熱心に耳を傾けていたようです。なかには通訳される前からタイ語を理解してうなずいている人も見られ、「なかなか通じな」と私は心の中でつぶやきました。先生の話がしめくくられる頃、参加者の1人が「あなたの活動のために私たち日本人は何ができますか。日本からほしいものはありますか。」とストレートな質問を投げかけました。先生がその質問に答える前に、別の参加者が口をはさんだのでした。

「もうそういう質問はやめましょうよ。物や金の援助がなんか変だと思いはじめた人が集まって、今や、とにかく人間同士のつき合いを大切にしようって話になっているんじゃないですか。そもそも、このアジア市民フォーラムの目的もそういうところにあるんじゃないですか。」この発言は、私に大きなショックを与えました。さらに、通訳を通してこのやりとりを聞いた先生のことばは2発目のパンチを私に与えたのです。

「日本からほしいものは何もありません。でも日本から入れたくないものはたくさんある。工業製品、まんが、援助……日本から持ちこまれたすべてのものですよ。」

2日目のメインプログラムは“わいわい分科会”でした。ここでは参加者は15のテーマに分かれ、経験交流や、意見交換をしながら今後の方向性を模索する、というのが目的

“市民とアジアをむすぶ国際フォーラム”に参加して

後藤 今日子



でした。私は、最も興味のある「定住難民～日本の中で自立して生きるために」に参加しました。団体の代表として、日本語指導者として、弁護士の立場から、またはまったくの個人的な経験談が語られ、いくつかの問題点もでました。CYRを通じて訪問ボランティアを始めたばかりの私にとって、子どもの就学案内や地域の住民を巻き込んでの訪問活動など、たいへん参考になりましたが、素人の日本語教育、短期間ですぐやめてしまうボランティアの若者の話など、耳の痛いものもあり、「まじめにやらなきゃいかん」と思われることしきり。

会場には25名の日本人と共に日本に定住した3人もいましたが、元「難民」の彼らの声にも、はっとさせられることが多かったように思い

ます。特に、接する日本人は、もっと相手の文化や歴史を理解してほしいという要望は印象的でした。定住難民に関わる団体がこのように集まるのも初めて、ということもあり、この分科会では特に結論を見いだしたわけではありませんが、「これから……」という雰囲気の中に散会。

3日目に初めて全員が集まり、パネル形式で前日の分科会の報告をか

ねて各パネラーが自分の意見、感想を発表しました。この時、このフォーラムでショックを受けたのは私だけではないことを確認できました。最後は、「このフォーラムのあと自分はこんなことをします！」と告白する



「アクション・プログラム」（これがまた刺激的！）でしめくくりとなりました。

この「アジア市民フォーラム」には全国から約500人が参加していたそうです。（それでも200人断ったとか）。

私にとって多くの「元気人間」に出会えたことが何よりの収穫です。と同時に、様々な問題があることもわかりました。刺激的な3連休のあと、このような人の輪が繋がって大きな輪になって一つ一つ問題が解決される日がくることを、以前より強く信じるようになりました。

子どもたちの将来は？

千葉県
流山市



青木 照子

息子が小学校に入学してしばらくの間、私は神経性の胃炎で薬のお世話になりました。それまで、比較的にんびり子育てをしてきましたし、入学前の1年間は保育園もやめさせ、時間の自由な父親と、まだ2歳の弟と旅をしたり、思いきり遊んだりしてきました。その子本人は、そういう生活から学校生活への切り替えもスムーズにゆき、問題のない子として生活を楽しんでいます。それがまた、私にとっては驚きであり、ショックでもありました。

息子の学校生活を知ってゆけばゆくほど、ゆるやか

14

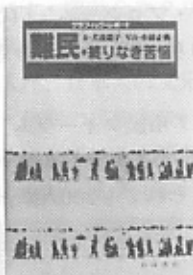


私のすすめる一冊

北海道瀬棚郡 藤塚 由香里

難民・終わりのなき苦悩

——共存の未来へ



写真文
二、岩波書店
四、書林
〇、正
〇、道
円刊典子

B4判、165ページからなるこの本は、1眼、2足と手、3戦争、4人間、5大地、6希望、7再出発の各章を、写真と文によって構成しています。

最初、書店でこの本を手にとった時に、「希望」という章の子どもたち

ですが、確実に管理化を感じました。子どもたちは、元気に、にこやかに、何に向かって育っていかうとしているのでしょうか？ 何かが少し狂ってきているのではないかと……気持ちの晴れない日々が続きました。

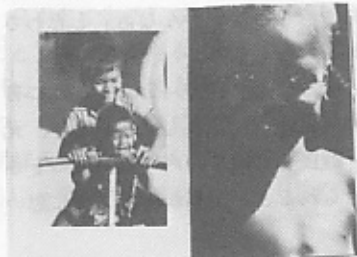
一方で、私は、障害をもった幼児（自閉症、知能停滞などさまざま）の生活指導訓練や、教育相談の仕事をしてきました。特に相談のケースに年々増えている、子どもを愛せない親の問題など、いったい「今」という時代を、どう考えていったらいいのか、という思いが解決されずに私の課題として残されたままになっていました。

息子が今の学校の中で「よい子」として育ってゆくことを本当にのぞんでいいのかどうか、私にはわからなくなっているのです。

難民の問題を知るようになって、幼い難民の子どもたちをとりまく環境に、仕事柄、子どもたちの将来への不安がつのってゆきました。また、もう一つは、本当に、今、自分は何

の笑顔に、とてもひきつけられました。木ぎれでコマを作って遊ぶ男の子たち、無心に授業に聞き入っている女の子、のびのびと元気に体操する子どもたち。一人一人の生き生きとした表情や目の輝きが伝わってくるかのようでした。

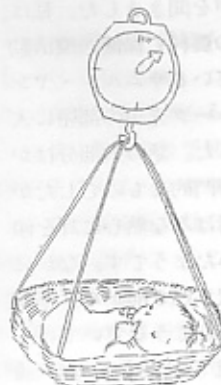
けれどもその逆に、せっかくキャンプにたどり着いても、ひどい所だと、サソリやヤモリの巣になっている窓のない暗い小屋に、子どもたちが放りこまれたままだということを知り、ショックでした。



をすべきなのかを考えさせられてしまいました。

子育てと仕事をきちんとやることを、当面の人生の目標としてきたのですが、それがゆらいできています。

でも私はそれを受けとめようと思うようになりました。「これでいい」と思っていたことがぐずれてゆくことは、悪いことではないと思います。まだ、自分に軌道修正する能力があったことを「よし」として、しばらく不安定な日々を、私のできることを少しずつやりながら、何かをみつけてゆきたいと思います。



イラスト・小川由美

日本にいると無縁のように思われる「戦争」が、今も世界の各地で続いていることを、改めて知らされます。そして、自分の手は汚さずに弱い者を脅して戦いをさせ、大量の武器を売りつけて、利潤を上げている先進国と呼ばれる国々のやり方の汚なさを、強く思わせられます。

「再出発」の章には、第三国に向けて旅立とうとしている人々の、うれしそうな表情があります。けれども、やっと受け入れ国が決まって、到着してからも、きびしいチェックを受けてその国の習慣に慣れ、ことばを習得するまでには、たいへんな努力がいるのだということを感じました。特に、日本は、受け入れ体制がとてもおけているということ、日本人の一人として恥ずかしく思います。

幼い子どもを 育てながら

岡山県
西田郡



赤堀 初江

わが家の毎年の春の訪れは、転勤という響きの津波と共におそってくる。私たちは、ただ小舟のごとく、ハラハラ波に舞い、波が去って、ようやく胸をなでおろす。ああ、わが家にも春が来たナ、と。

そんな思いも束の間、子育ての波は、毎日どんどん押しよせてくる。ああ、今日も感情をむき出しにして叱ったナ、救いのない叱り方だったナと悔やまれる。

子どもをやっと授かった時、きっと子どもは、うれしからせながら、喜ばせながら育てよう。安らぎのなかで眠ることができる、毎日がうれしくてたまらない子に育ててほしいと祈っていたのに。

ただ毎日を、指針なきままに波をさまよい、イライラと心を荒らしてしまっていたようだ。子どもから、喜びをとりあげてしまう毎日ではないか。

心を荒らしてしまうということは、恐ろしいことだと思う。そこからは喜びは生まれず、痛みだけを生みだしてしまう。心の荒れたおとなたちが、すでに心ない行為によって、難民の子の存在をつくってしまった。

子どもたちの苦しみをいやすことの困難を思うと、胸えぐられるような思いがする。いや本当にいやすことができるだろうか。傷つけられた魂は、いったいどうなってしまうのだろう。同じ幼い子どもでもありながら、だれにもうれしからせてもら

こともなく、感動の意味すら知ることもないであろう子どもたちの存在がある。

わが子をすら魂の難民にしかねないようなこの私。難民の子どもたちへの想い、あるいは祈りが、子どもたちの喜びにつながる事が果たしてあるだろうか。あまりに深い魂の傷の前に、思いは複雑である。けれども、心を見なおし、整え、前向きに生きて、考えなければならない。

どんよりした、花ぐもりの春の風は、私の心を、痛みと共に、わずかばかりの浄化へと、さそってくれたようだ。

地方の小さな町に 住んで

山口県
下松市



藤岡 シゲ子

昭和ひと桁生まれの私は、戦争中教育を受け、戦後、青年期を過ごすなかで、この戦争が家庭の平和を破壊し、若者の命を奪い、愛する町を戦火で焼きつくし、たくさんの住宅を犠牲にしたことを見てきました。また、食糧不足で、いつも空腹の辛さも味わいました。

しかし、敗戦後、日本がアジアの国々に行った侵略の事実が明らかにされ、私たち日本人は、知らなかった、知らされなかったでは、すまされない大きなあやまちを犯したことに気づいたのです。ゴメンナサイ！と言うだけではどうしようもない、重たい現実が、私たちに突きつけられたのです。

この戦争を通して、隣国の韓国・朝鮮の人々の生活を奪った日本は、

原稿大募集!!

会員登録に原稿をお寄せください。すすめたい本、現在やっていること、仲間の募集、勉強していること、疑問に思っていること、会への希望その他何でも。

横書き、16字詰で書いていただけると助かります。字数は600~800字程度。お待ちしております!!

いまだに在日韓国・朝鮮人を差別して平然としているのです。指紋押捺拒否をする人々の側になってみて、長い長いその苦しみを知り、踏まれた足の痛みを、少しでもわかろうと、今、支える会に属しています。

また、山口市に住む、クリスチャンの中谷康子さんが、亡くなったご主人(自衛官)が護国神社にまつられたことを拒否する訴訟の闘いにも入会。いつか来た道にならないために、みはりの役をしながら、最高裁が、どのような判決をだすのか見守っています。(編集部注：6月1日、最高裁は原告人の訴えを退けました)

今、地方の小さな町に住んで、過疎の厳しさや、そこに住む人々のうめきを自分のものにする事ができました。若い人々が、まだローンの終わっていない家や、両親を残してやむなく会社の命令で都会へと転居していくため、人口が減っています。

働く者の切ない声や、生活を犠牲にし、その上に成り立っている今の経済社会。いつかつかえる時が来るのではないかと危ぶみます。豊かになった日本ですが、このままではいけないと思うのです。

勉強会を始めてみて

広島県
広島市



井野崎 順子

昨年の夏から、少人数ながら難民問題の勉強会を始めました。

言いだしっぱは、もちろん私なのですが、難民問題を知って以来、やりたいと思っていました。

難民問題は、食糧や政治など、いろいろな問題から生まれたものです。だからこそ、ずっと勉強していく必要性を感じたのです。そして、

常に社会問題に対して意識し続ける、敏感な姿勢をもっていたいと思ったのです。この勉強会をひとつの単位として定期的な金銭的援助でもしていけるようになったらと思っています。

今までにやったことは、まずカンボジア難民の流出原因を知ろうということで、歴史の流れを追ってみましたが、政治的なくみ等がからんでくると先に進まなくなりました。

その他、手づくりのスライドや、ビデオ「キリング・フィールド」を観て、みんなの考えを述べ合ったり、戦争について、また、政治のしくみについて理解を深めたりもしました。難民分布の世界地図も現在作成中です。今後は、スライドを作るという案も出ています。

実際に、こうしてグループをつく

竹の子通信

徒歩5分のところにあります。

去年オープンした、ベトナムの方が経営しているレストランで、味もよいので評判です。ぜひ1度、友だちを誘ってみてはいかがですか。

TEL 06-458-7116

(記/中野能行)

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
*竹の子では、共に活動していただける方を募集しています。また、情報がほしい方もご連絡ください。
TEL 0720-55-0772 坂本麻子
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

り、集い、勉強を始めたわけですが、とても会を進めていくむずかしさを感じています。専門家がいないから、忙しいから、などと思ったりで逃げ道をさがしていますが、本当のところは、自分の問題に対する意識がまだまだ弱いからだと思うのです。

大養道子さんが講演会のなかで、「何か、突拍子もないことを考え出してください。お真面目に考えるのではなく。」と話されていたのがとても印象的でした。これは、資金集めの活動についてお話しされたのですが、勉強会のあり方についても同じことが言えるのかもしれない。

勉強会の進め方で、何かグッドアイデアがありましたら教えてください。できることからやってみましょう。

16

〈ベトナム旧正月の集い〉

2月21日、日本在住ベトナム人協会主催による、旧正月(テト)の集いが大阪の西淀川区でありました。中国やベトナムでは2月初めの旧正月を盛大に祝う習慣があります。この日、関西に住むベトナムの方や、日本の方など約200人が集いました。

みなさん、ベトナム料理を食べたことはありますか? 春巻、カレー味のシチュー、細長いもち、そして、もち米と小豆のケーキなど、私たちを楽しませてくれます。

また、ステージでは、旧正月にはベトナムで行われる劇や、子どもたちの歌がありました。

この集いは、規模も大きく、旧正月ということで、和歌山県など遠方からも来られ、旧交を暖めていました。

〈ベトナム料理はいかが?〉

さて、「サイゴンの味」というベトナム料理店がJR環状線福島駅下車、

■アジアからの出稼ぎ労働者を支える会

タイ、韓国、フィリピンなどからの、出稼ぎ労働者が増えています。今年に入り、男性の労働者がとくに増えています。そのため多くの労働問題が表面化しつつあります。これらに対応して、新今宮に住む、日雇労働者の方や、キリスト教関係の方、労働団体の方などが集まって、支援活動を始めています。詳しい情報は、浪花協会 06-231-4951 旅路の里 06-641-7183へ。



写真提供・日本在住ベトナム人協会

ご寄付 いただいた方々

1988年1月～4月
(敬称略)

北海道

- 岩本 典子 (札幌市)
- 焔山ひとみ (〃)
- 札幌聖心女子学院 (〃)
- 松浦 芳子 (岩見沢市)
- 〇ース幼稚園 (小樽市)
- 北桜山教会日曜学校 (滝川郡)
- 小山田 彰 (古宇郡)

青森県

- 佐藤美千代 (青森市)
- 弘前学院聖愛高校宗教部 (弘前市)

岩手県

- 浜田 正美 (宮古市)
- 佐藤 重幸 (岩手郡)

秋田県

- 岩沢 史征 (大館市)

茨城県

- 関口 博美 (牛久市)
- 佐藤 生子 (北茨城市)
- 土谷美知子 (稲敷郡)
- 小菅隆・篤・聡 (筑波郡)

栃木県

- 小山友の会子供部 (下都賀郡)

埼玉県

- 川崎 道代 (川口市)
- 木村 穂子 (〃)
- 富田 清江 (川越市)
- カトリック熊谷教会 (熊谷市)

群馬県

- 鏑田 薫 (所沢市)
- 関 政弘 (〃)
- 日井 保恵 (新座市)
- 石山 民子 (入間郡)

千葉県

- 鬼崎 貞子 (千葉市)
- 三輪美枝子 (〃)
- 国府台聖愛乳児園 職員一同 (市川市)
- 山田 彩子 (〃)
- 篠原 登代 (鎌ヶ谷市)
- 矢ヶ部留美子 (木更津市)
- 江戸川台子供の家 (流山市)
- 神庭 信幸 (習志野市)
- 曾我 京子 (船橋市)
- 吉富 綾子 (松戸市)

東京都

- 香川 澄子 (足立区)
- 形山よし子 (〃)
- 宮坂満智子 (〃)

- 井ノ部百合子 (荒川区)
- 立原 和子 (〃)
- 島貴 紀子 (板橋区)
- 中村 克夫 (〃)
- 小岩教会教会学校 (江戸川区)

- 小島 正子 (〃)
- 永良 千秋 (〃)
- 青木 英明 (大田区)
- 君島ちよ乃 (〃)
- 鈴木 重子 (〃)
- 中村 育民 (〃)
- 日本キリスト教団 田園調布教会 (〃)
- 粒良 京子 (葛飾区)
- 東京聖書集会 (北区)
- 大竹 麗子 (江東区)
- 麦の会 (品川区)
- 渡辺 道子 (〃)
- 井上 好子 (渋谷区)
- 尾平佳津江 (〃)
- 澤田書店 (〃)
- 床次 八重 (〃)
- 高橋 悠治 (〃)
- 田代 泰子 (〃)
- 永井 靖子 (〃)
- 星田 トヨ (〃)
- 松岡 鈴子 (〃)
- 橋沢 知子 (新宿区)
- 久保田淑子 (〃)

- 東京都水道局新宿営業所 難民を考える有志の会 (〃)

フレンドシップアジア

- 委員会 (〃)
- 堀 悦子 (〃)
- 湯川れい子 (〃)
- 淀橋第四小学校読書サークル (〃)
- 金杉佐和子 (杉並区)
- 善福寺子供の家 (〃)
- 富盛 紀与 (〃)
- 村上 芳子 (〃)
- 小林亜紀・家族一同 (墨田区)

福島県

- 福島 歌子 (〃)
- 池田 透 (世田谷区)
- 小林智恵子 (〃)
- 佐藤 和子 (〃)
- 津田 綾子 (〃)
- 師岡 文男 (〃)
- 山路 圭 (中央区)
- クラウド・ルーメル (千代田区)

小島 礼子 (豊島区)

- 飯沼ふみ子 (中野区)
- 小倉 松枝 (〃)
- 谷口 洋子 (〃)
- 永戸 恭子 (〃)
- 広戸 道夫 (〃)

- 大鹿 恵子 (練馬区)
- 汐碓 紀子 (〃)
- 青井 千恵 (文京区)
- 麻布教会 (港区)
- 太田 一和 (〃)
- 木村 久子 (〃)
- 下平 和雄 (〃)
- 聖心会ドシエーンハウス (〃)
- 聖心女子学院さつき会 宗教サークル (〃)
- 東洋英和女学院東光会 (〃)
- 前内祥尚・節子 (〃)
- 駒場幼稚園田の会 (目黒区)

- 竹内 尚興 (〃)
- 田中 朗子 (〃)
- 福原 和子 (〃)
- 山崎 朋子 (〃)
- 多摩川幼稚園 (秋川市)
- 熊谷ことち (青梅市)
- 窪口 郁子 (清瀬市)
- 武藤 好子 (立川市)
- 堀内俊太郎 (多摩市)
- 飯尾香織・美園 (町田市)
- 伊藤 トシ (〃)
- 藤田れい子 (〃)
- 大橋 明子 (三鷹市)
- 三鷹ガレージセール 実行委員会 (〃)
- 渡辺 典子 (〃)
- 佐久間羊子 (武蔵野市)
- 松原 幸子 (西多摩郡)

神奈川県

- 荒井 信枝 (横浜市)
- 近藤 セキ (〃)
- 佐野 克行 (〃)
- 志村 悦子 (〃)
- 田島 敏子 (〃)
- 多田寿美子 (〃)
- 田中 仁 (〃)
- 横浜雙葉小学校 (〃)
- 横浜みこころ幼稚園 (〃)
- 近藤 雅広 (鎌倉市)
- 藤井 節子 (〃)
- 伊藤 恵子 (川崎市)
- 大鹿 理恵 (〃)
- 大坪 進 (〃)
- 加藤研太郎・玲奈 (〃)
- 堤 義治 (〃)
- 長田 邦穂 (〃)
- 森戸 潔 (〃)
- 横堀 雅子 (逗子市)
- たんぽぽの会 (茅ヶ崎市)
- ともしび会 (〃)
- 東川悦子・三浦・原田・中西 (平塚市)

- 川村 栄子 (藤沢市)
- 佐藤寿半子 (〃)
- バイニー (〃)
- 鈴木いぶき・麦穂 (中郡)

山梨県

- 大東香代子 (中巨摩郡)
- 雨宮 利雄 (東八代郡)

新潟県

- 阿部 清 (新潟市)

富山県

- 大沢 まり (魚津市)

石川県

- 千保 紀子 (金沢市)

福井県

- 廣方 重俊 (福井市)

静岡県

- 南荘宏・敬子 (静岡市)
- 青木 秀光 (熱海市)
- 自然食品健康友の会 (〃)
- 不二聖心女子学院 温情の会 (裾野市)
- 鈴木 真樹 (浜松市)
- 丹羽 洋子 (〃)
- 伊豆海保育園職員一同 (賀茂郡)

愛知県

- 井上道雄・貞子 (名古屋市)
- 橋本 千穎 (春日井市)
- 関口 純子 (小牧市)
- 土田 友章 (瀬戸市)
- 高橋 仁見 (豊川市)
- 豊田婦人ボランティア (豊田市)
- 伊藤 洋子 (海部郡)

三重県

- 宇仁田愛子 (伊勢市)

京都府

- 伊崎 佳明 (京都市)
- 喫茶アトリエ (〃)
- 新道 雪子 (〃)
- 友久 茂子 (〃)
- 東 あかね (〃)
- 難民援助宮津カトリックの会 (宮津市)

大阪府

- 秋田 恭江 (大阪市)
- 伊東 峰明 (〃)
- 田原 正昭 (〃)
- 呑野 佳子 (〃)
- 立石三月子 (和泉市)
- 今村 幹 (吹田市)
- 大杉美耶子 (豊中市)
- 三浦 正枝 (富田林市)
- 桂義幸・聡美 (寝屋川市)
- 聖母女学院小学校 (〃)
- 永戸 美紀 (枚方市)

カトリック聖ヨゼフ布教
修道女会 (真面目)
太田 憲治 (守口市)
兵庫県
稲生とも子 (神戸市)
神戸平安教会婦人会
(//)
小室 昌子 (//)
宮前 峰子 (//)
石渡 要蔵 (芦屋市)
岡本 豊子 (尼崎市)
小川 正子 (//)
松嶋 吉則 (伊丹市)
鍵山世都子 (西宮市)
黒田 佳治 (//)
西宮一表教会 (//)
宮澤 朝子 (//)
奈良県
大和郡山カトリック
幼稚園 (大和郡山市)
和歌山県
藤木 昌子 (和歌山市)
岡山県
日本キリスト教団
岡山信愛教会 (岡山市)
高木 唱洋 (赤磐郡)
広島県
田川 泰資 (広島市)
日本キリスト教団広島
教会まきば会 (//)
金尾 アツ子 (三原市)
山口県
秋山 尚伸 (下関市)
藤井 操 (光市)
福岡県
荒川 幸子 (福岡市)
安藤 玲子 (//)
木上 絹枝 (//)
日本キリスト教団
福岡玉川教会 (//)
福岡女学院中高校宗教部
(//)
福岡雙葉高校生徒会
(//)
古賀 徳子 (久留米市)
古賀山敬康 (遠賀郡)
伊藤 史子 (粕屋郡)
長崎県
松尾由紀子 (長崎市)
熊本県
青木 悟 (熊本市)
大津山教子 (//)
大分県
松山まり子 (大分市)
宮崎県
佐田 悦子 (日向市)
住所・氏名不明
石川鹿西消印、今治消印、
荏原消印、新宿消印、
鳥取消印、七尾消印、

武蔵野消印

物品を 寄せられた方々

1988年1月～4月 (敬称略)
北海道
住友石炭鉱業北海道支社
(札幌市)
藤塚由加里 (瀬棚郡)
桜井 千尋 (空知郡)
岩手県
松本千寿子 (北上市)
福島県
郡山市立大槻中学校
(郡山市)
茨城県
関口 博美 (牛久市)
新谷 修一 (筑波郡)
埼玉県
打越さく良 (浦和市)
一志 悦子 (岩槻市)
吉田 信子 (大宮市)
高橋 瑞枝 (桶川市)
緑川 瑞彦 (//)
元山 善雄 (春日部市)
中島 瑞枝 (行田市)
面 多恵子 (熊谷市)
カトリック熊谷教会
(//)
武井里恵子 (越谷市)
渡部真樹子 (富士見市)
岡田 米子 (蕨市)
平野 春 (//)
中島 孝枝 (北葛飾郡)
千葉県
阿尾るみ子 (千葉市)
植田智加子 (//)
鬼崎 貞子 (//)
成瀬 昌美 (//)
大津すい子 (旭市)
鎌田 一徳 (市川市)
らいふステーション
(//)
田村 茂代 (柏市)
中西 雪恵 (鎌ヶ谷市)
久能 基子 (習志野市)
関根 錦 (船橋市)
曾我 京子 (//)
中村 正信 (松戸市)
佐々木秀子 (印旛郡)
東京都
片野 洋子 (足立区)
佐藤 京子 (//)
清水けい子 (//)
時枝 裕子 (//)
広戸 直江 (//)
横山 峰子 (//)

雨宮 久子 (荒川区)
片山 和恵 (板橋区)
高野 紫 (//)
萩原 珠代 (//)
石川東世子 (江戸川区)
木村八重子 (//)
青木 桂子 (大田区)
石田 明子 (//)
伊藤みちい (//)
植木美穂子 (//)
岡 富美子 (//)
小国千代子 (//)
坂本 明 (//)
佐藤 慧子 (//)
藤倉 芳 (//)
仁科 豊子 (//)
平川 啓子 (//)
平林みどり (//)
増田 猛 (//)
村上 京子 (//)
横山 いと (//)
渡辺ひと美 (葛飾区)
大橋きよ子 (//)
粒良 京子 (//)
西村佳津子 (//)
上野 芳江 (北区)
小林 茂子 (//)
柴田 良子 (//)
高橋 とよ (//)
対馬恵美子 (//)
林 国洋 (//)
藤原 蒜子 (//)
船木しのぶ (//)
水野 哲子 (//)
大澤 昭子 (江東区)
細田千賀子 (//)
宇都宮智恵子 (品川区)
大鼓万智子 (//)
高橋 静子 (//)
月村 保 (//)
中村医院 (//)
マーシャス・亜美
(//)
谷沢 一江 (//)
山岸 早苗 (//)
吉田 和子 (//)
れんげ会 (//)
渡辺りゆう子 (//)
簡アシスト (渋谷区)
伊東止女子 (//)
内野 茂吉 (//)
大熊 敬夫 (//)
大野由美子 (//)
川崎 千尋 (//)
川嶋 茂雄 (//)
木部 鹿次 (//)
小島 三雄 (//)
小林 裕子 (//)
小森亜紀子 (//)
近藤 桂子 (//)

澤 恵美 (渋谷区)
柴山留美子 (//)
聖心インターナショナル
スクール父兄 (//)
聖心会第一修道院
(//)
聖心会第二修道院
(//)
聖心会第三修道院
(//)
聖心会シスター新任
(//)
聖心会本部修道院
(//)
聖心女子大学寮生
(//)
立花 和子 (//)
棚橋美穂子 (//)
戸田 道子 (//)
中林 昌子 (//)
中村 文子 (//)
永井 靖子 (//)
永峰 淑子 (//)
Neumeister M
(//)
野村 寿子 (//)
畑原 (//)
棚木真知子 (//)
林 香代子 (//)
古川 弘美 (//)
松岡 和子 (//)
松岡 玲子 (//)
向井 武 (//)
矢島 裕子 (//)
植島 照雄 (新宿区)
嶋沢 知子 (//)
日下 英子 (//)
柳瀬 豊子 (//)
久保田淑子 (//)
斉藤 陸子 (//)
土川 光子 (//)
中島 朋子 (//)
長沢千恵子 (//)
日比谷寿美子 (//)
正木 恵子 (//)
水上靴店 (//)
湯川れい子 (//)
江里口信子 (杉並区)
金森 洋子 (//)
川崎恵美子 (//)
佐伯 桃子 (//)
佐藤 澄子 (//)
末満 広志 (//)
鈴木裕紀子 (//)
関口 順子 (//)
戸川 正悟 (//)
山田 清子 (//)
渡辺 直子 (//)
遠藤ふみ子 (墨田区)
永井ノブ子 (//)

浅井美奈子 (世田谷区)	田中悠紀子 (練馬区)	渋谷 百合 (調布市)	山梨県
浅賀 要子 (//)	土川 茂代 (//)	小川 由美 (日野市)	上條 晴夫 (北都留郡)
石沢 政子 (//)	中沢 紀久 (//)	関野 則子 (//)	長野県
大芝 安雄 (//)	早水ひろみ (//)	平野 幸子 (//)	藤岡 (松本市)
加藤 隆 (//)	渡浅 健 (//)	藤原 操子 (保谷市)	新潟県
龜山 泰子 (//)	青井 千恵 (文京区)	飯田 文子 (埴田市)	中林 虎三 (新潟市)
河村なぎさ (//)	上坪 弘美 (//)	伊藤 トシ (//)	富山県
小出 静子 (//)	JVC (//)	大澤 恭子 (//)	出口 教子 (富山市)
小林 敏子 (//)	長谷川藤華 (//)	桜井 昌子 (//)	石川県
酒井志津子 (//)	福士英都子 (//)	松本 恵子 (//)	岩本 玉陽 (松任市)
佐藤 幸子 (//)	藤本紀世子 (//)	浅見 智子 (三鷹市)	静岡県
鈴木 道子 (//)	古山 佳子 (//)	桑原美樹子 (//)	平田ひろ子 (三島市)
鈴木三輪子 (//)	武藤徹一郎 (//)	神奈川県	愛知県
高原 瑛子 (//)	渡辺 純子 (//)	秋元ふさ江 (横浜市)	宮本 明子 (名古屋市)
高部 恵理 (//)	綾部 徳子 (港区)	浦 幸子 (//)	宗村 節子 (//)
津田 綾子 (//)	伊吹 佑子 (//)	鎌田 麻理 (//)	鶴長ますみ (豊明市)
寺岡 玲子 (//)	太田 和 (//)	ブルーブ友 (//)	滋賀県
十勝 花子 (//)	河野 昌子 (//)	小島 美子 (//)	寸田 一夫 (大津市)
中川 なか (//)	崎川由美子 (//)	関 和子 (//)	横江 泰弘 (//)
堀川 初枝 (//)	杉野早智子 (//)	高橋 尚子 (//)	京都府
宮下千賀子 (//)	鈴木 穂子 (//)	多田寿美子 (//)	伊崎 佳明 (京都市)
森米店 (//)	高木 愛子 (//)	田中 仁 (//)	山本麻起子 (//)
宗塚 幸子 (//)	田波 耕治 (//)	津野 喜一 (//)	大阪府
柳澤由美恵 (//)	博田 圭子 (//)	額田 幸子 (//)	永戸 美紀 (枚方市)
山本 康代 (//)	原 磯子 (//)	内藤美代子 (//)	細尾 和美 (守口市)
笹川とし子 (台東区)	福島あや子 (//)	永瀬 玲子 (//)	兵庫県
竹内 友規 (//)	堀田 潤子 (//)	浜田 秀子 (//)	小野 裕子 (神戸市)
原元真沙美 (//)	真鍋 洋子 (//)	フオックス・セツコ (//)	坪谷 明美 (尼崎市)
石川 和美 (中央区)	丸茂 富子 (//)	星野 節子 (//)	黒田 佳治 (西宮市)
菊池 明美 (//)	水谷はる乃 (//)	松浦 光江 (//)	和歌山県
辰濃 和男 (//)	ミム・ソワン (//)	吉井真佐子 (//)	藤木 昌子 (和歌山市)
戸田 敦 (//)	三村 典子 (//)	堤 洋子 (伊勢原市)	岡山県
山路 圭 (//)	柳川 恵子 (//)	菊岡 真子 (鎌倉市)	難波 幸矢 (岡山市)
石原小枝子 (千代田区)	八杉美佐子 (//)	小林しめ子 (//)	広島県
風間 陽子 (//)	筋内 節子 (//)	高嶋 幸子 (//)	井野崎順子 (広島市)
佐藤 恒夫 (//)	Lobo Eleng (//)	三神 康子 (//)	田川 泰資 (//)
稲垣 実男 (//)	和田 令子 (//)	村田佳代子 (//)	愛媛県
農林漁業金融公庫 (//)	飯田 光子 (目黒区)	荒井 治代 (川崎市)	藤原千鶴子 (松山市)
クラウドス・ルーメル (//)	市川 知子 (//)	伊藤 恵子 (//)	福岡県
井筒 (豊島区)	大塚 恵子 (//)	加藤三千子 (//)	大垣 洋子 (福岡市)
小島 礼子 (//)	鎌田 晴子・元良 (//)	川崎市立生田中学校	蓮尾 エリ (//)
小森喜見子 (//)	川原 道子 (//)	PTA (//)	野村 朝子 (北九州市)
原 加賀子 (//)	木村 厚子 (//)	古宇田千代子 (//)	古賀 徳子 (久留米市)
馬場貴美子 (//)	駒場幼稚園田の会 (//)	宮岡 孝子 (//)	古賀山敬康 (遠賀郡)
若松 博子 (//)	近藤 圭子 (//)	中野 康子 (//)	住所不明
旭野 俊之 (中野区)	枝光会幼稚園付属幼児	萩原三佐子 (//)	安藤
大竹三千子 (//)	研究所田の会 (//)	土生 寿一 (//)	ケン・チャナワティ
倉繁 明美 (//)	芝 節子 (//)	安井 亮 (//)	杉原 睦子
戸田/VLミ (//)	島田三工子 (//)	山内 豊子 (//)	
中村 義昭 (//)	早出 高子 (//)	浦本三穂子 (相模原市)	ご協力ありがとうございました。
永戸 恭子 (//)	東山住区住民会議 (//)	神谷 博子 (//)	
前田 一美 (//)	福田 辰治 (//)	高澤 治江 (逗子市)	
上原 輝也 (練馬区)	福原 和子 (//)	森 淑江 (//)	
小河内則子 (//)	安井 恵子 (//)	栗川 悦子 (平塚市)	
海江田知恵子 (//)	山澤百合子 (//)	加藤 徹 (藤沢市)	
後藤今日子 (//)	末並ゆみ子 (小平市)	平 貴仁 (//)	
佐藤 宏子 (//)	堀内 陽子 (多摩市)	高橋三樹子 (//)	
清水ゆかり (//)		柴田 悦子 (大和市)	
		今井野梨子 (中 郡)	

CYRきのう・今日

タイ・カオイダン

1月

布絵芝居が完成。制作期間6か月以上をかけ、美術係のセーラがコツコツと仕上げたもの。セーラ自身が、表情たっぷりに子どもの前で紹介。みんなの目が輝いていた。



1月8日

イギリスの団体CORから、保育園に子ウサギを1匹もらう。



1月18日

1月から再び切れていた、ミルクとビスケットのおやつに代わり、週3回バナナを配るようになる。

1月20、27日

月に2回のスポーツデー。「ゲーム」「かけっこ」などグループ対抗で、保育者も子どももおおいにわいていた。スポーツデーは1月から実施。



1月

ゴムの木の供給が停止になり、水を沸かしたり、染めの作業ができなくなる。このため、昨年とり壊

した23区の保育園の廃材(古い竹)をとりあえず使うことにする。

2月8、9、14日

不法入居者計220人がサイト2へ送り返される。

3月25日

カオイダンキャンプの中で活動している団体の集まりで、新たに第三国に定住面接を受ける資格を得た約7000人のうち57%が受け入れられたことが、報告される。また7、8年もいる人たちが、もう1度定住審査を受けられるよう、UNHCRとアメリカ大使館などに手紙で依頼。2020名が署名。

国内

1月23日

国内活動の打合せ。昨年まで別に行っていた訪問ボランティアの打合せと1本化させての1回目の集まり。訪問しての感想などを交換。毎月第2土曜日を定例会とする。

1月31日

“市民とアジアをむすぶ国際フォーラム”定住難民分科会の準備会。定住者に関わっている団体、個人の初の顔合わせ。

2月6日

平塚市で訪問活動をしている会員・関係者の初の打合せ。



2月13日

国内活動定例打合せ。訪問をしている会員から、どこまで、どういうふうに関われればいいのかわからないという疑問がでる。これに対応えられるガイドライン案をつくることにする。

2月22日、3月7日

“市民とアジアをむすぶ国際フォーラム”分科会打合せ。

4月4～15日

福岡の会員、大垣洋子さん企画によるパネル展。NHK福岡ロビーにて。



4月9日

国内活動定例打合せ。訪問ボランティアの役割案を検討。もう少し時間をかけ、“役割”より“手引き”になるものをつくることになる。

4月16日

小川由美、タイでの1年9か月の任期を終え帰国。

4月24日

第17回バザー。当日前2週間の品物の集まりふりは例年以上で、うれしい悲鳴を上げる。よい天気にも恵まれ、1,513,878円の収益があった。



〈編集後記〉

指紋押捺に疑問を感じていても、具体的な反対の意志表示をしなければ、結果的には差別を容認していることになる——そのことに、今回の取材を通して気づかされました。在日韓国・朝鮮人問題、流民問題には、日本の閉鎖性が端的にあらわれています。その原因は、遠いところにあるのではなく、日本を構成している私たち一人一人にまさにあったのです。

(じゅん)